

府・町・ため池管理者の3者による連携事業：ため池を活用した流域治水の取り組みについて

「大阪府」「熊取町」「ため池管理者」の3者が連携して実施する流域治水のモデルケース「熊取大池地区」が完成しました。これにより、大雨などの洪水時においてため池に降雨を一時的に貯留することができ、流域の洪水被害の抑制につながります。

【事業の概要】

佐野川水系においては、歴史的景観を形成する街並み保全の観点から、大幅な拡幅等を伴う河川改修のみに頼る手法ではなく、流域内の洪水調節施設整備と組み合わせ、現状河川内での改修を行うこととしており、熊取大池を含めた既存のため池・調整池施設複数箇所を改修し、一定量の雨水を一時的に貯留することにより流域の浸水被害解消につなげる計画としました。



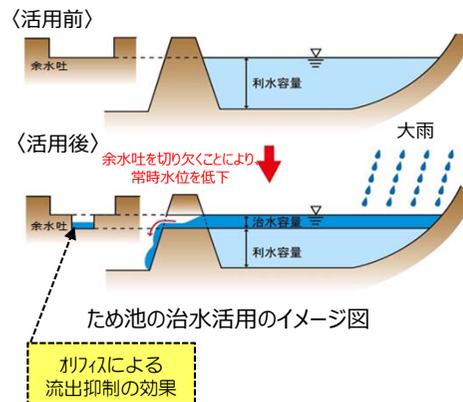
佐野川流域では、時間雨量65mm (1/30年)の降雨により、現況河道で流下能力が不足する箇所からの溢水により、床上浸水(水深0.5m以上の浸水)が広範囲に発生するおそれがあることが判明。

◇熊取大池における整備の内容 (工期H29~R3.5 総事業費213,000千円)

- ・余水吐切下げ 高さ50cm×幅1.05m
- ・取水施設改良 パイプライン工986m



- 池面積：6.5ha、総貯水量：26万m³
- 治水容量：約25,000m³
- 管理者：熊取町大池土地改良区



ため池を活用した流域治水に向けて

【ため池を治水活用する上での課題】

- ・余水吐を切り下げ、ため池の水位を下げため、農業用水の不足が懸念される。

【ため池を利用する農業者の課題】

- ・農業を支える担い手の高齢化が進んでおり、今までのような水管理が困難になっている。

【対応】

ため池の貯水容量を最大限活用し、受益地への効率的な用水供給を図るため、新たな取水設備及び送水施設 (パイプライン) の整備を実施することとした。



切り欠いた余水吐 (50cmの切り下げ)



パイプライン布設

期待される事業効果

【治水サイド】

- ・ため池をはじめ流域内の貯留施設を改修することで、熊取大池では約 1 m³/s、流域全体では約15m³/sの流出抑制効果が期待できる。
- ・河川改修にかかるトータル事業費の抑制と、事業効果の早期発現が可能となる。

【農業者サイド】

- ・パイプラインにより、従来に比べ水管理の省力化が図られる。
- ・水利施設の整備及び維持管理に要する費用の軽減が図られる。
- ・ため池の治水活用により、農業者の治水に対する意識の向上が図られる。